

在日米軍司令官サルバトーレ A”サム”アンジェレラ中将殿

外務大臣 岸田文雄殿

防衛大臣 小野寺五典殿

## 沖縄での米軍 F15 戦闘機の墜落と飛行再開に抗議し、

### F15、オスプレイの撤去を求める

2013年5月31日 日本平和委員会

5月28日、米軍嘉手納基地所属の F15 戦闘機が沖縄本島沖海上に墜落した。この海域ではパヤオ漁の漁船が操業中で、一步間違えば大惨事となる事件であった。

同機は1979年に嘉手納に常駐配備されて以降、34年間で9回、10機が墜落している。3.7年に一度の頻度である。さらにこれ以外の航空機も含めれば、1972年の施政権返還以降これまでに44回墜落している。1年に1度以上の確率である。航空機事故全体では540件発生し、34人が死亡している。

これらの事実は、F15 戦闘機はじめ米軍航空機基地と沖縄県民の命と安全が両立しないことを示している。こうした状況のなかで欠陥機オスプレイの配備を強行することが許されないことは、あまりにも明白である。

ところが、あろうことか米軍は、沖縄県の「原因究明までは飛行中止を」との要求をも無視し、31日に F15 の飛行再開を強行した。これに対し県知事も「理解しがたい」と表明しているのは当然である。

我々は、沖縄県民とともに、F15 戦闘機の飛行中止と、F15、オスプレイなど米軍機の撤去、沖縄からの米軍基地の撤去を求めるものである。